台大日本語文研究第 43 期
2022 年 06 月，頁 63-85
2022-02-25 收稿，2022-05-25 通過刊登
DOI: 10.6183/NTUJP. 202206_(43).0003

從形容詞思考日本昔話詞彙
—以基本度・品詞比・語意領域為線索—

林立萍*

摘要

本稿以現代日本國語教育所依據的學校語法，透過教育用基本詞彙、詞類構成比、語意領域，從形容詞的角度探討日本昔話詞彙的特徵。結果浮現以下 3 點：

1. 將近 9 成的形容詞屬教育用基本詞彙。
2. 從詞類構成比窺知日本昔話的文體呈現非「摘要性」的性格，比較接近以描寫對象性質或狀態的「樣態描寫」。
3. 與「心」有關的形容詞最多。其中，多為表好惡・愛憎之形容詞，令人關注。

日本昔話詞彙的形容詞究竟描繪出什麼樣的人物像？或是這些形容詞是如何修飾出場人物，留作他日探討。

關鍵詞：形容詞、教育基本詞彙、詞類構成比、語意領域、日本昔話詞彙

* 國立臺灣大學日本語文學系教授

臺灣大學學術期刊資料庫

Observations on the Adjectives From Japanese Folktale: Observation Through the Fundamentals, Composition Ratio of Parts of Speech, and Semantic Field

Li-Ping Lin*

Abstract

This paper attempts to explore the characteristics of the Japanese folktale vocabulary. As a result, the following three points were highlighted.

1. Nearly 90% of the adjectives are basic vocabulary for education.
2. The composition ratio of parts of speech of vocabulary in Japanese folktale is less "summary" and more "descriptive", which describes the nature or state of the object.
3. Adjectives related to "heart" items are the most common. Among them, adjectives expressing likes and dislikes, love and hate are noteworthy for their prominence.

What kind of characters are portrayed by the adjectives in the Japanese folktale? Or how do these adjectives modify the characters in the scene? Due to the limitation of space, these issues will be left for future discussion.

Key words: Adjectives, educational fundamental vocabulary, composition ratio of part of speech, vocabulary in Japanese folktale

* Professor of Department of Japanese Language and Literature, National Taiwan University

臺灣大學學術期刊資料庫

形容詞から日本昔話語彙を考える
―基本度・品詞構成比・意味分野別を手掛かりに―

林立萍*

要旨

本稿は、現代日本の国語教育が依拠した学校文法の形容詞に焦点を当て、既存の教育基本語彙、品詞構成比、意味分野別から日本昔話語彙の特徴を探ろうとする。結果、以下の 3 点を浮き彫りにした。

1. 約 9 割近くの形容詞が既存の教育基本語彙表に見られる。
2. 品詞構成比から昔話の文体が「要約的」ではなく、対象を質や状態によって表現する相の類の比率が高い「ありさま描写的」性格に近いと見受けられる。
3. 「心」項目にかかわる形容詞が一番多い。そのうち、好悪・愛憎を表現する形容詞が目立っている点で注目される。

日本昔話語彙に使用される形容詞からどのような人物像が伝えられるのか、もしくは、それがどのような登場人物を修飾するのか、などについては、今後の課題として検討する。

キーワード：形容詞、教育基本語彙、品詞構成比、意味分野、日本昔話語彙

* 国立台湾大学日本語文学系教授

臺灣大學學術期刊資料庫

形容詞から日本昔話語彙を考える
―基本度・品詞構成比・意味分野別を手掛かりに―

林立萍

一、はじめに

語彙は、一定の範囲からなる語の集合で、語の集まりである。語集団と呼ばれる場合もある。そのため、日本昔話から集まった語の集まりは日本昔話語彙と見做すことになる。拙著（2014）は、日本語非母語話者の日本語学習の一助[1]として、日本昔話を取り上げ、語彙調査を通して語のありかたを観察し、その特徴を探ろうとした。調査は、紙媒体の『日本昔話集（上)』(柳田國男、1930 年、アルス社）と視聴媒体の「まんが日本昔ばなし」(毎日放送、2011 年）から自立語 7,744[2]語（異なり）を集めることができた。本稿は、便宜的

---

1 日本昔話を日本語の読み物として活用する可能性を検討するにあたって、語彙量 2,000 語前後のビデオアニメ化された日本昔話を取り上げた。そこから抽出した自立語を日本語能力試験出題基準の語彙表に照らし合わせ、単語の難易度を探ってみた。結果、語彙の重なり度合いは初級、中級、上級の順に低くなるということが分かった。すわなち、昔話は、初級（後半）の日本語能力を持っていれば、聞く、読むことを始めることができると考えられる。詳しくは拙著（2014)『日本昔話語彙の研究』第二章を参照されたい。

2 日本昔話は、庶民の生活の中から生まれ、民衆によって口承されてきたもので、本当にあったかどうかは知らないという心持で語り継がれる話である。文献上の記載は、古くは、8 世紀の『古事記』までに遡ることができるにも拘らず、同じテーマに纏わる話であっても、時代や地域だけではなく、語り手や視聴者などによって、内容を始め、文体や言葉遣いまでさまざまなバリエーションが見られる。昔話の調査・採集に 40 数年も携わる国文学・民俗学として知られる稲田浩二氏が 6 万話に通暁するという話もある。このようにあらゆる昔話を短期間で網羅的に調査するのは、無理なことではないが、多大な人力と時間を費やす必要があると思われる。

調査は、紙媒体の『日本昔話集（上)』(柳田國男、1930 年、アルス社）と視聴媒体の「まんが日本昔ばなし」(毎日放送、2011 年）から異なり語数 7,744 を集めた。前者は、民俗学者の柳田國男が変わった珍しいものではなく、できるだけ全国の多くの児童が聞いて知っているだろうと思われるものを採集し、小さな一冊の本にしようとして上梓したもので、収められた 108 話から異なり 4,301 語、延べ 24,379 語をピックアップすることができた。共通語の風潮で出版されたもので、幾分かの「標準的」という意味合いが含まれていると言えよう。後者は、1975 年 1 月から 1994 年 9 月にかけて週に一回というペースで日本の毎日放送テレビ局で放送されたもので、2011 年 4 月に発売された DVD に収録されている最初の 78 話（1 話 15 分）から異なり 5,199 語、延べ 34,380 語を集められた。このシリーズは、全部で 1,468 話が収録さ

臺灣大學日本語文學系

に、これを日本昔話語彙と呼ぶこととする。

賴錦雀（2007）（2009）は、現代日本語形容詞研究の一環に「～い女」や「～い男」形式を取り上げ、日本語の形容詞使用からどのような現代女性像や男性像が伝えられるのかを検証した。結果、容貌・姿態や性格を表すものが全体の 53%を占めていると指摘された。これを受け、日本昔話語彙にどのような形容詞が使用されているのか、これらの形容詞にどのような特徴が見られるのかは、昔話語彙の特徴を考える際に課題として浮上してきた。本稿は、一つのたたき台として、日本昔話語彙の形容詞に焦点を当て、基本度、品詞構成比、意味分野別を手掛かりに、質的と量的なアプローチからその特徴をさぐってみる。その成果は、日本昔語彙研究の基礎資料として活用すると期待される。

二、日本昔話語彙について

日本昔話語彙（前述した自立語 7,744 語）を意味分野別に整理し語数順に並べかえてみると、「人間活動の主体」意味分野の構成比が特別な様相を見せている。特に、登場人物にかかわる表現が上位に来てバラエティに富んでいる点で特徴的であると指摘できる[3]。

登場人物といえば、大きく「～ちゃん」、「～くん」、「～さん」、「～さま」、「～どん」といった人称関係を表す接尾辞の有無によって二大別できる。前掲書は、これらの接尾辞によって人あつかいされた名詞を手掛かりに日本の庶民生活を探ろうとした。結果としては、爺婆関係、親子・家族関係、動・植物関係、神仏・精霊関係の登場

れている。高い視聴率が記録されただけではなく、文化庁優秀映画作品賞を始め、多数の賞を受賞しており、人びとの関心を集めている視聴覚媒体と言えよう。調査方法や語の集計などについては、拙著（2014）を参照されたい。

[3] 意味分類を行うにあたって、よく利用されている『分類語彙表―増補改訂版』（2004）を手掛かりにした。結果としては、「1.2 人間活動の主体」分野にグルーピングされた語が上位に来ていると観察された。異なり語数で一番多かったのは、「弘法大師」や「桃太郎」といった人名関係のグループであった。そのほか、「信州」や「日田」などといった地名（3位）、「氏神」や「鬼」などの神仏・精霊（4位）、「われ」や「かれ」などといった人称代名詞（9位）、「怠け者」や「正直者」などといった人物（11位）があげられる。どちらかというと、登場人物にかかわる表現がバラエティに富んでいる傾向にある。

臺灣大學 日語系 版權所有

人物がヒットされた。[4]これをさらに弘法大師や働き者といった性格の持ち主も入れると、日本昔話における登場人物は、(1)「弘法大師、善五郎…など」といった人名関係、(2)「神様、水神…など」の神仏精霊、(3)「染物屋、彫物師…など」といった専門技術、職業関係、(4)「僕、彼女…など」の人称代名詞、(5)「兄弟、末娘…など」の親子・家族関係、(6)「怠け者、働き者…など」の性格の持ち主、(7)「猿、雀、楠の木…など」の動植物関係のグループに分けられる。各語群の異なり語数やそれが全体に対する割合など、参考に語例を添え語数順に並べかえ表 1 のように掲げておく。

表 1　昔話語彙の「登場人物」について

順位	項目	語数	語率	累積語数	累積語数率	語例
(1)	人名関係	207	2.67%	207	2.67%	弘法大師　善五郎…
(2)	神仏精霊	110	1.42%	317	4.09%	仏様、水神　山母…
(3)	技術、職業関係	88	1.14%	405	5.23%	染め屋、家来、乞食…
(4)	人称代名詞	77	0.99%	482	6.22%	僕　彼女　…
(5)	親子・家族関係	74	0.96%	556	7.18%	爺　親　兄弟　娘…
(6)	性格の持ち主	54	0.70%	610	7.88%	拗け者　働き者…
(7)	動植物関係[5]	27	0.35%	637	8.23%	猿　亀　蛇　雀　楠の木…

例えば、人名関係にグルーピングされた語群は、207 語あり、全体の 7,744 語に対し 2.67%で、登場人物の中で数が一番多いということである。二番目に多いのは、神仏精霊の 110 語で、一番目の人名関係の 207 語と合計すると累積語数が 317 語となり、全体の 7,744 語に対

4　詳しくは拙著（2014）『日本昔話語彙の研究』第五章を参照されたい。

5　動物関係、植物関係にグルーピングされた語数は、それぞれ 190 語、126 語で、計 316 語となる。これらの語形にはすべて「～ちゃん」、「～くん」、「～さん」、「～さま」、「～どん」といった人称関係の接尾辞がついているわけではない。例えば、「或時猿は熊のうちへ訪ねて行って、どうすれば沢山の川の魚を、捕ることが出来るだろうかと相談しました。（柳田国男氏『日本の昔話集』第一話「猿の尾はなぜ短い」、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す）」とあるように、人称関係の接尾辞がつかなくても登場人物として見なせる場合もある。ここでは、便宜的に人称関係の接尾辞がついている語形だけを数えることにする。

臺灣大學學術期刊論文版權

する累積語数率 4.09%になる。このように、登場人物として扱うことができる語群だけでもう全体の 8%を超えている。さらに、「或時猿は熊のうちへ訪ねて行って」とあるように、人称関係の接尾辞のつかない動植物関係も加算すると、登場人物の占める割合は全体の 1 割[6]前後になるのではないかと推測される点で注目される。

拙稿（2015）（2017）は語数の一番多い人名関係の登場人物を『赤い鳥』[7]及び『分類語彙表』に照らし合わせてみると、「弘法大師、安徳天皇…など」のような、歴史的・文化的背景を辿られる「歴史文化人物」[8]の出現に意味があると読みとれた。これらの人物から「正直」、「智恵」、「孝行」、「勤勉」、「武勇」、「信用」、「恩返し」などのキーワードが浮かび上がり、昔の庶民の期待している人間像が浮き彫りにされた。また、「幸せ」、「平穏」、「豊か」な日々を送るという生活に対する願いも窺われると言えよう。

このように、日本昔話語彙に出現する登場人物は豊富な点で特別な意味があると考えられる。それがどのような形容詞に修飾され、もしくは形容詞からどのような人物像がうかがえるのかは、日本昔話語彙を考えるにあたって欠かせない課題でもある。本稿は、これを解明す

---

6 注 5 を参照されたい。

7 『赤い鳥』は大正時代から盛んになった日本の児童文学運動を語る際に欠かせない、日本の児童文学で最も貴重な雑誌で画期的な資料として知られている。この雑誌は、夏目漱石門下の鈴木三重吉の主宰によって大正 7[1918]年 7 月に始まったもので、復刊後の昭和 11[1936]年まで、全 196 冊出版された。その中、芥川龍之介を始め、有島武郎、宇野浩二、新美南吉など文壇の一流の作家・詩人の多くの傑作が収められ、大正・昭和を通じて多くの子どもに夢とロマンを与えてきたという。広島市立中央図書館の広島文学資料室は、『赤い鳥』刊行 90 周年の節目に「鈴木三重吉と「赤い鳥」の世界」というウェーブサイトを立ち上げ、その作家と作品の目録をインターネットで公開した。そのうち、「童話」と注記された作品は、167 人によって発表された 1,183 篇ある。平均的な長さは、3,000 字～5,000 字である。大半の作家は 1 篇か 2 篇ほどしか発表せず、全体の三分の二の割合である。35 篇以上の作家は、わずか 11 人しかいない。数で一番多いのは、鈴木三重吉の 111 話である。現段階では、作品数が一番多かった鈴木三重吉（111 話）に焦点を当て、それにどのような固有人名が見られるのかを手掛かりにし考察を行った。詳しくは拙稿（2015）（2017）を参照されたい。

8 どのような人物を「歴史文化人物」と見なすかは、改めて文献調査やアンケートによる意識調査を施し確認す必要があるが、現段階では、『日本伝奇伝説大事典』（1987 年、角川書店）、『日本歴史人物事典』（1994 年、朝日新聞社）を参考にしつつ、物語から個人的な理解や判断にゆだねることにする。詳しくは拙稿（2015）を参照されたい。

臺灣大學圖書館期刊資料

る基礎作業として、難易度、品詞構成比、意味分野別から日本昔話語彙の形容詞にどのような様相がうかがえるのかを明らかにしておく。

三、いわゆる形容詞とは

形容詞は、広く物事の性質や状態がどのようであるかを表現する言葉で、単語の文法的な種類、品詞の一つであると見なされている。これについては、『日本語文法事典』（2014 年、大修館書店）では、次のように言及[9]されている。

> 形容詞は主要な品詞の一つである。品詞とは、語彙・文法的な特徴によって単語が分類されたものである。形容詞に属する単語は、人・物・ことがらなどの性質・状態をあらわし、名詞を属性規定することを第一の機能とする。～（中略）～日本語においても、「名詞を修飾限定する機能」が形容詞を他の品詞から区別する特徴であり、この特徴を形容詞のもっとも重要な性質であるとみなす立場がある。

しかし、形容詞の定義や分類上の基準は、学説によって異なる。これについては、前掲書（2014：186）が次のように述べている。

> 「赤–い」「すばらし–い」のような単語は、多くの人が形容詞とみなしている。それに対して、「真っ赤–」「優秀–」などの単語を「形容動詞」として、これを一品詞とする立場があり、教科文法に支えられて今日なお国語教育や中国の日本語教育の世界で支配的である。これらの単語の所属をめぐり、諸説ある。～（中略）～外国語としての日本語教育の世界では、前者を「第一形容詞」「イ形容詞」と、後者を「第二形容詞」「ナ形容詞」と見ることが普及している。

即ち、現在の国語教育が依拠した学校文法[10]では、「形容詞」を一品

---

9 詳しくは『日本語文法事典』（2014：182-191）「形容詞」（村木新次郎が執筆）を参照されたい。

10 いわゆる学校文法は、主として国語学者の橋本進吉（1882～1945）の文法理論に立脚したもので、単語を文法上の職能によって名詞、動詞、形容詞、形容動詞、副詞、連体詞、感動詞、接続詞、助詞、助動詞、計 10 品詞に類別する。

臺灣大學學術期刊資料庫

詞として扱われ、語形「～い」で体言を修飾し、「～な」で体言を修飾するいわゆる形容動詞と区別されている。これに対し、日本語非母語話者を対象とした日本語教育文法[11]においては、ほぼ国語教育でいう「形容詞」「形容動詞」両者を合わせて形容詞と見做されているということである。

一方、形容詞の意味や用法を解説する飛田良文・浅田秀子氏の『現代形容詞用法辞典』(1991年、東京堂出版)では、「修飾」という働きに注目し、形容動詞、連体詞、連語、慣用句、動詞の打ち消し形などを含めて積極的に見出し語として採用している。たとえば、「あきたりない」「かなわない」「わからない」「にべもない」「にっちもさっちもいかない」「おしもおされもしない」など。また、「男らしい」「みれんがましい」「あかっぽい」「みじめったらしい」などのように、形容詞を作る造語成分(「-らしい」「-がましい」「-ぽい」「-たらしい」)を使った複合形容詞も見出し語として取り上げられている。ただ、漢語の形容動詞は数が膨大なうえ、概念そのものを表す名詞との区分が明確でなく、日本文化を内蔵していると思われる可能性が低いということで、大部分が省略されたという[12]。このように、一口に形容詞と言ってもさまざまな捉え方があると見受けられる。本稿は、これまでの研究成果を踏まえ、国語教育でいう形容詞に焦点を当て、考察を進めることにする。

なお、国語教育で参考になる『日本語学研究事典』(2007)を繙くと、形容詞には次のような特徴があると見られる。

> 用言の一品詞名。(1)客観的な事物・事柄の性質(色彩を含む)・状態を表すとともに、(2)主観的な心に感じる感覚や感情を表す品詞。ただし、両者は明確に分けられない場合もある。(中略)連用形は連用中止を示し、「遠くの町」「近くの川」のように名

[11] 庵功雄(2012)や野田尚史編(2004)によると、「日本語教育のための文法」に関する研究はかつて寺村秀夫(1928～1990)を中心に盛んに行われたが,2000年代前後から文法と日本語教育の新たな関係の構築を目指す「日本語教育文法」と称する研究が行われるようになってきているという。

[12] 詳しくは、『現代形容詞用法辞典』の巻頭にある「凡例」、「「形容詞」から日本文化を解明する」、「本書の特色と使い方」を参照されたい。

臺灣大學 版權所有 翻印必究

> 詞の働きを示し、かつ用言を修飾する。終止形は、中古では「多し」が稀で、「多かり」が一般的である。なお、英語では文の述語にならないのに対し、述語として「空が青い」のように用い、連体形は体言を修飾する働きを有する。[13]

つまり、語形「～い」で名詞を修飾する連体修飾用法や「～く」で動詞をはじめとする用言を修飾する連用修飾用法及び名詞の働きとして体言を修飾する連体修飾用法があるということである。

以上を踏まえ、前述した日本昔話語彙から計 141 語[14]の形容詞を調査対象としてピックアップすることができた。語数の集計にあたって、「暖かい」と「温かい」といった表記上の異字同訓の問題、「安い」と「お安い」のような「お」の有無なども留意しつつ、現段階では、それぞれを区別せず一語として数えることにする。

四、基本度からみる日本昔話語彙の形容詞

ある単語が日本語の学習や教授上の優先順位や難易度を考える際に、基本度[15]という概念を物差しとして想起される。語の基本度を測定する方法には、かつて水谷静夫（1963）の「語の基本度の決定法試案」が知られている。一方、その単語が日本語の学習や教授のために作成された既存の教育基本語彙表に登載されるか否かによって把握できるとも考えられる。つまり、ある語は、多くの教育用の語彙表に採録されていれば、その基本度が高いということである。言い換えれば、ある語集団の基本度は、教授や学習のための基本語彙との重なり度合いによって把握できると考えられる。拙著（2014）

---

[13] 詳しくは、『日本語学研究事典』（2007：206-207）「形容詞」（佐藤武義が執筆）を参照されたい。

[14] 「暖かい」と「温かい」といった同音異表記の問題、「安い」と「お安い」のような「お」の有無など、それぞれ一語として扱うべきかどうかについては、さらに検討する余地があると思われるが、便宜上、一語として数えることにする。

[15] 拙著（2014）では日本語の学習や教授のために作成された、ある単語が既存の教育基本語彙表に登載される数が多ければ、その基本度合いが高いと考えている。つまり、ここでいう基本度合いは、日本語の学習や教授上の優先順位や難易度を判断する際の、物差しとして利用できるということになる。

臺灣大學日本語文學系

は、その実践として『日本語教育基本語彙七種比較対照表』[16]（1982年、大蔵省印刷局）を中心にまとめた『国立国語研究所報告127教育基本語彙の基本的研究－増補改訂版』[17]（2009年、以下「国研127」）を手掛かりに、日本昔話語彙の基本度合いを探ってみた。結果は約7割の日本昔語彙が既存の7種の教育基本語彙のどれかに見られるという側面を浮き彫りにした。ここでは、日本昔話語彙の形容詞141語に絞って、既存の7種の教育基本語彙表との重なり度合いを調べてみる。

表2と表3は調査結果をまとめようとするものである。表2はその量的分布を示そうとするもので、表3は語例の一覧である。

表2 既存の7種の教育基本語彙表からみる昔話語彙の形容詞（一）

重なり度合い	語数	割合	累積語数	累積率
7	1	0.71%	1	0.71%
6	74	52.48%	75	53.19%
5	17	12.06%	92	65.25%
4	10	7.09%	102	72.34%
3	6	4.26%	108	76.60%
2	12	8.51%	120	85.11%
1	5	3.55%	125	88.65%
0	16	11.35%	141	100.00%
合計	141	100.00%		

[16] 既存の7種の語彙表は、以下のとおりである。①『教育基本語彙』（22,500語、1958年、阪本一郎）、②『新教育基本語彙』（19,271語、1984年、阪本一郎）、③『学習基本語彙』（3,469語、1956年、田中久直）、④『国語教育のための基本語体系』（3,000語、1957年、池原楢雄）、⑤『言語要素指導』（1,955語、1962年、児童言語研究会）、⑥『学習基本語彙』（4,322語、1984年、中央教育研究所）、⑦『日本語教育のための基本語彙調査』（6,060語、1984年、国立国語研究所）。

[17] これは当該研究の開始時である1991年4月において、戦後作られた国語教育上、基本的と見做なされた語彙表を網羅しようとするもので、全部で27,234件の単語が収録されているという。そのため、「国研127」は、ある語集団の基本度17をはかるための物差しとして活用できると考えられる。

表 3　既存の 7 種の教育基本語彙表からみる昔話語彙の形容詞(二)

重なり度合い	語数	語　例
7	1	正しい
6	74	青い、赤い、暖かい（温かい）、新しい、暑い(熱い)、明るい、危ない、有り難い、勇ましい、忙しい、痛い、美しい、旨い(上手い、美味い)、羨ましい、嬉しい、多い、偉い、美味しい、大きい、可笑しい、大人しい、恐ろしい、重い、遅い、高い、賢い、固い、軽い、悲しい、可愛い、汚い、悔しい、暗い、苦しい、黒い、濃い、怖い、寒い、寂しい、白い、すごい、惜しい、ずるい、狭い、楽しい、強い、小さい、つまらない、冷たい、無い、長い、懐かしい、恥ずかしい、激しい、早い、酷い、広い、深い、太い、欲しい、細い、速い（早い）、古い、貧しい、眩しい、難しい、短い、丸い（円い）、珍しい、ものすごい、優し、安い（お安い）、若い（お若い）、悪い
5	17	浅い、慌ただしい、うるさい、逞しい、近い、遠い、険しい、少ない、鈍い、まずい、めでたい、勿体ない、眠い、相応しい、良い、宜しい（お宜しい）、弱い
4	10	厚い、幼い、可愛らしい、きつい、心細い、情けない、名高い、憎い、憎らしい、蒸し暑い
3	6	重たい、恋しい、凄まじい、見苦しい、馬鹿馬鹿しい、空しい
2	12	愛くるしい、愛しい、忌々しい、薄汚い、恭しい、かたじけない、神々しい、手厚い、手強い、でっかい、不甲斐ない、惨い
1	5	あっけない、奥深い、仕方無い、生暖かい、福々しい
0	16	悪戯っぽい、うら若い、おっかない、気味悪い、ごつい塩っからい、しやすい、塩っぱい、ずる賢い、力ない、ど偉い、真っ黒い、めんこい、ほど近い、悪賢い

臺灣大學學術期刊資料庫

例えば、「国研 127」に収録された既存の 7 種の教育基本語彙表のすべてに出現した形容詞は、「正しい」という 1 語あり、141 語に対し 0.71%という割合である。6 種の教育基本語彙表に見られるのは 74 語あり、先の「正しい」1 語に加算すると、計 75 語となり、141 語に対して 53.19%という累積率である。このように、累積率を手掛かりにすると、約 9 割近くが教育基本語彙のどれかに見られるということがわかる。

表 3 では、一語として見做した「暖かい」と「温かい」といった異字同訓の問題や「安い」と「お安い」のような「お」の有無などについては、参考に、灰色で示しておく。また、当該形容詞は日本の古典文学作品を読むための基本的な語彙[18]にさかのぼることができる場合、下線を引いておく。計 34 語あり、141 語に対する率は 24.1%である。

表 3 にも示されているように、どの語彙表にも見られる形容詞は、「正しい」一語しかないのである。「正しい」には、形が曲がったりゆがんだりしていない、道徳、法律、作法などにかなって、規範や規準に対して乱れたところがないという意味合いで想起される。ここからは、昔話に込められている教訓的性格、道徳感が黙示されていると伺え、興味をそそられる。

また、下線の施されている形容詞が 5 種か 6 種の教育基本語彙表に見られるグループに集中している点も興味深い。つまり、基本度合いの高い形容詞は古典を読むための基本的な語彙である可能性が高いということである。裏を返せば、昔話を読むことによって古典日本語の勉強にもつながり、役立つことが示唆されている。

五、品詞構成比からみる日本昔話語彙とその形容詞

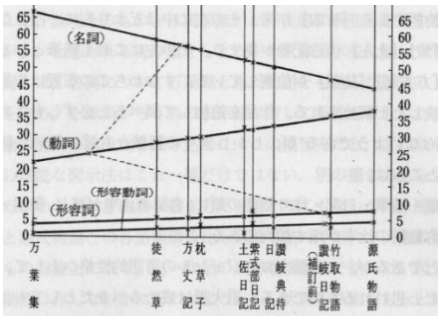
形容詞から語集団の特徴を考えるにあたって、品詞構成比が想起

[18] 大野晋（1956）は、万葉集、源氏物語、枕草子、徒然草の四作品に共通な単語を類聚名義抄の和訓と照らし合わせ、日本の古典文学作品の基本的な語彙として 815 語を浮き彫りにされた。日本昔話語彙の基本度を考える際に、これも一つの物差しになると考えられよう。

臺灣大學圖書館

される。品詞構成比をめぐる論考としては「大野の法則」と「樺島の法則」がよく知られている。前者は、大野晋（1956）が異なり語数を用いて日本の古典文学作品の共通する語彙[19]、品詞構成比[20]について明らかにした。大野氏は、日本の古典文学作品にジャンルによって名詞・動詞・形容詞の比率に特徴ある偏りの存在があると指摘し、作品に見られる品詞構成比は、現代の作品にもかかる現象が見いだされると言及した。大野氏によると、名詞の比率は歌集、随筆、日記、物語の順で減少傾向にあり、動詞や形容詞、形容動詞の割合は、逆に増加傾向にあるという。

（図 1）



そして名詞の割合は、素材の変化の多様性を物語っているのに対し、動詞、形容詞、形容動詞の割合は、描写、叙述の精細さと深くかかわっていると述べた。参考に、古典文学作品の品詞構成比について前掲論文より図 1 のように掲げておく。

後者の「樺島の法則」は、樺島忠夫（1954）は、延べ語数を用いて現代文における自立語の品詞構成比率を考察したものである。樺島氏によると、品詞構成比率には文章のジャンルによって差があり品詞の割合が決定されるとし、どのようなテキストでも、品詞構成率は名詞（N）が最も高く、次に動詞（V）、続いて形容詞・形状詞・副詞・連体詞の類（M）、接続詞・感動詞類（I）と並ぶという。このように、大野の法則も樺島の法則も文章の文体性格を測るツール

[19] 大野晋（1956）は、万葉集、源氏物語、枕草子、徒然草の語彙の Variety を計数し、各作品の語彙においていかなる語が共通するかを示した。そして、四作品に共通する単語が、類聚名義抄の和訓といかに共通するかを示した。これらの共通語は、日本の古典文学作品における基本的な語彙としての一資格を有するとしようとする。

[20] 大野晋（1956）は、万葉集、源氏物語、枕草子、徒然草のほか、土佐日記、竹取物語、紫式部日記、讃岐典侍日記、方丈記を加え、各作品の品詞別の語数を数え、各品詞の比率を考察した。

臺灣大學日本語文研究資料庫

として参考になり、そして、形容詞の占める割合がどの語集団でも名詞や動詞を上回ることはないということがわかった。

表4 『日本昔話集（上）』自立語の品詞分布

	異語数		延語数	
名　詞（体の類）	2,542	59.10%	11,088	45.47%
動　詞（用の類）	1,003	23.32%	6,452	26.47%
形容詞・形容動詞（相の類）	569	13.23%	3,844	15.77%
その他	187	4.34%	2,997	12.29%
計	4,301	100.0%	24,379	100.0%

表5「まんが日本昔ばなし（1〜78話）」自立語の品詞分布

	異語数		延語数	
名　詞（体の類）	2,638	50.74%	15,547	45.22%
動　詞（用の類）	1,353	26.02%	7,808	22.13%
形容詞・形容動詞（相の類）	775	14.91%	5,799	16.87%
その他	433	8.33%	5,426	15.78%
計	5,199	100.00%	34,380	100.00%

表4と表5は、日本昔話語彙[21]の品詞分布を示そうとするものである。これを大野の法則や樺島の法則に照らし合わせてみると、形容詞の占める割合は名詞や動詞を上回ることがないと再び確認できた。また、紙媒体の『日本昔話集（上）』（表4）は、視聴媒体「まんが日本昔ばなし」（表5）より描写、叙述においてはそれほど精細ではないものの、素材の変化においては多様性が見られるという点[22]で興味深い。ただ、「大野の法則」で昔話を検証するにあたって、厳密に形容詞と形容動詞を区別して考察しなければならないが、さしあたり大まかな傾向として把握してみることにとどめておこう。

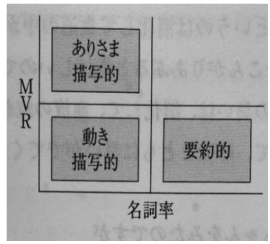
同じ延べ語数を用い自立語の品詞構成比率に基づきテキストの特徴を示す論考には、樺島忠夫・寿岳章子（1965）もあげられる。樺島・寿岳（1965）は、自立語の品詞をその機能によってN（名詞・代名詞）、V（動詞）、M（形容詞、形容動詞、副詞、連体詞）、I（接続詞、感動詞）の四つに分類し、大正・昭和期の小説を調査し、少ない文字数に多くの意味を盛り込まなければならない要約的文章では、名詞率が大きいと指摘し、Nの比率が増加すれば、V・M・Iの比率は減少

[21] 注2を参照されたい。
[22] 表4と表5は、「樺島の法則」、後述する樺島忠夫・寿岳章子（1965）や田貝和子（2011）を踏まえ、形容詞を形容動詞・副詞・連体詞などと一つのグループにしてまとめたものである。

臺灣大學圖書館資料庫

することを言及した。N と MVR の関係からどのような文体的特徴が見いだせるのかは、冨士池優美（2020）が図 2 を掲げ、次のように説明する。

（図 2）



・MVR=100×相の類の比率÷用の類の比率
・名詞比率 N が大きく、MVR が小さい文章には要約的な文章が多い。
・N が小さく、MVR が大きい文章にはありさま描写的な文章が多い。
・N が小さく、MVR が小さい文章には動き描写的な文章が多い。

これと同様な言及[23]が田貝和子（2011）にも見られる。つまり、品詞の構成比は文章の性格、文体的特徴と深い関係にあるということである。

試みに、日本昔話語彙（表 4 と表 5）の N と MVR を求めてみると、それぞれ、45.47、59.58 と 45.22、76.2 となる。これを踏まえると、昔話は、どちらかというと、「要約的」ではなく、対象を質や状態によって表現する相の類の比率が高い「ありさま描写的」な性格に近いということが考えられよう。

六、意味分野別からみる日本昔話語彙の形容詞

本節は、収集した形容詞を国立国語研究所『分類語彙表-増補改訂版』を参考に意味分類して特徴を考えてみる。表 6 は、意味分類表の中項目に類型した結果である。

[23] 具体的には、名詞率は、一般に「要約的」な文章で大きく、描写的な文章で小さいとする。また、MVR の値が大きいほど「ありさま描写的」であり、MVR の値が小さいほど「動き描写的」名詞の比率は文章の特質を表し、名詞の比率に応じて他の品詞もある傾向をもって変化すると言及した。

表 6　意味分野別から見る日本昔話語彙の形容詞

3.10 真偽	正しい
3.11 類	遠い
3.12 存在	無い　空しい　力ない　仕方無い
3.13 様相	*羨ましい*　*可笑しい*　珍しい　悪い　相応しい　良い　宜しい（お宜しいい）　*寂しい*　*きつい*　美しい　*汚い*　*薄汚い*　危ない　険しい　しやすい
3.14 力	*怖い*　*すごい*　ものすごい　逞しい　弱い　*きつい*　凄まじい　酷い　手強い
3.16 時間	あっけない　近い　新しい　*遅い*　小さい　古い　幼い　うら若い
3.18 形	丸い（円い）　鈍い　ごつい
3.19 量	多い　貧しい　少ない　福々しい　高い　長い 深い 短い　浅い　*厚い*　ほど近い　*奥深い*　大きい　狭い　太い　*きつい*　でっかい　*遅い*　速い（早い）　*慌ただしい*　重い　軽い　重たい　*暖かい（温かい）*　寒い　蒸し暑い　生暖かい
3.30 心	痛い　眩しい　眠い　明るい　嬉しい　*可笑しい*　楽しい　つまらない　恐ろしい　悔しい　*怖い*　*すごい*　*惜しい*　気味悪い　おっかない　忌々しい　心細い　悲しい　苦しい　*寂しい*　*うるさい*　情けない　*暖かい温かい*　*羨ましい*　可愛い　懐かしい　優しい　*厚い*　可愛らしい　憎い　憎らしい　恋しい　馬鹿馬鹿しい　愛くるしい　愛しい　めんこい　手厚い　*有り難い*　かたじけない　*険しい*　恥ずかしい　欲しい　可笑しい　難しい　*奥深い*　見苦しい
3.31 言語	*うるさい*　名高い
3.33 生活	*有り難い*　めでたい　神々しい　忙しい　*慌ただしい*

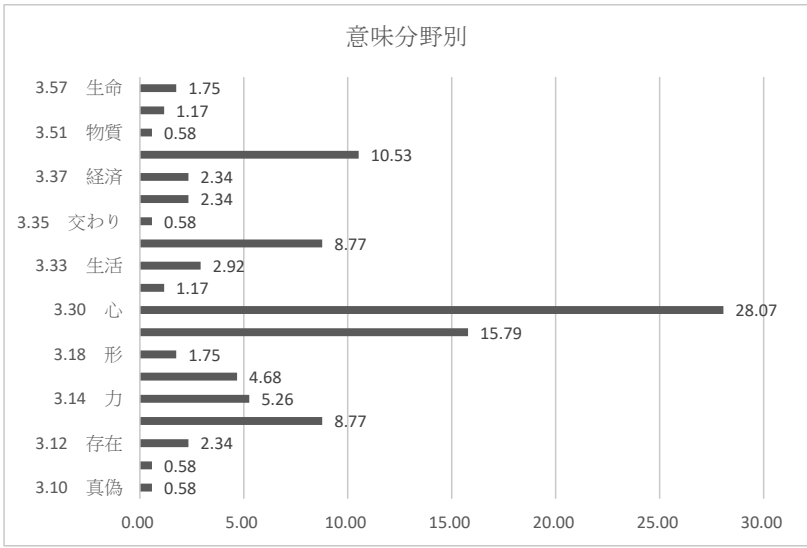
臺灣大學學術期刊資料庫

3.34 行為	明るい　大人しい　不甲斐ない　青い　*旨い(上手い美味い)*　賢い　まずい　悪賢い　偉い　ずるい　ど偉い　ずる賢い　悪戯っぽい　勇ましい　激しい
3.35 交わり	*暖かい（温かい）*
3.36 待遇	冷たい　酷い　惨い　しい
3.37 経済	*惜しい*　安い（お安い）　勿体ない　*寂しい*
3.50 自然	*明るい*　暗い　*青い*　赤い　黒い　白い　真っ黒い　細い　*うるさい*　*旨い(上手い美味い)*　美味しい　塩っからい　塩っぱい　固い　*汚い*　*黒い*　濃い　*薄汚い*
3.51 物質	*暑い(熱い)*
3.52 天地	*寂しい*　*険しい*
3.57 生命	*青い*　若い（お若い）　強い

表 6 からも分かるように、意味分野別で見た場合、「真偽」項目においては、一語しかなく、多くの教育基本語彙表に見られる「正しい」である。「羨ましい」のように、複数の意味分野を有する場合、下線を引いて示しておく。全体としては、「心」項目にかかわる表現が一番多いと見て取られる。そのうち、「憎い、憎らしい、恋しい、愛しい、可愛い、可愛らしい、めんこい、懐かしい、厚い、手厚い、温かい、優しい、羨ましい、馬鹿馬鹿しい」といった好悪・愛憎を表現する形容詞が目立っている点で注目される。また、複数の意味分野を有する形容詞は、多義語として見なすことができ、「真偽」、「類」、「存在」、「形」、「待遇」の項目以外、どの項目にも見当たる点で語の基本的な性格も伺えよう。参考として各意味項目の語数を総数 141 語に対する割合をグラフにして、図 3 のように掲げておく。

臺灣大學學術期刊資料庫

図 3 意味分野別に見る形容詞



七、終わりに―結びにかえて

拙稿（2017）にも触れたように、言葉には、それを使用する民族の文化や生活様式が反映される。言葉は文化を伝承するツールであると同時に、文化でもある。日本語には自然を表す表現が多いということが周知のことである。これは日本の自然が変化に富んでいることと、日本人が自然に親しみ、強い関心を持ってきたことを意味すると言われている[24]。これに対し、日本昔話語彙における「人間活動の主体」意味分野の構成比が特別な様相を見せており、特に、登場人物も豊富である点で特徴として指摘できる。これについてはすでに第二節で述べたので贅言を要しない。一方、前述もしたように、形容詞に属する単語は、人・物・ことがらなどの性質・状態がどのようで表現されるのか、その属性を規定することが第一の機能とされている。そのため、形容詞を通してこれらの登場人物がどのような属性で規定されているのか、もしくはどのような人物像がうかが

[24] 詳しくは、金田一春彦（1988：161）『日本語　新版（上）』（岩波新書）を参照されたい。

臺灣大學學術期刊資料庫

えるのかは、日本昔話語彙の性格・特徴を検討するにあたって有効な視点であると考えられる。本稿は、それを解明する基礎作業として、国語教育が依拠した学校文法の形容詞に焦点を当て、基本度、品詞構成比、意味分野別から日本昔話語彙に出現された形容詞にどのような特徴がうかがえるのかを探ろうとした。結果、以下の 3 点を浮き彫りにした。

1. 累積率を手掛かりにすると、約 9 割近くの形容詞が教育基本語彙のどれかに見られるということで難易度の一側面として把握できると言えよう。
2. 品詞構成比から見ると、昔話は、「要約的」ではなく、対象を質や状態によって表現する相の類の比率が高い「ありさま描写的」文体性格に近い傾向にある。
3. 意味分野「心」の項目にかかわる表現が一番多い。そのうち、好悪・愛憎を表現する形容詞が目立っていると注目される。

昔話は子どもに語りかける話であることから、そのことばの容易さの点で日本語の基礎的な学習に、またその内容で日本の伝統文化や庶民生活の理解に適している。これを日本語学習の読み物として扱えば日本語学習の一助になる。が、それを扱う前には、その語彙性格や基本的な語彙をまず明らかにしておく必要である。本稿は、形容詞に焦点を当て、質と量的観点から昔話語彙の性格の解明にアプローチしようとている。その成果は、日本語教育においていかに昔話を利用するか、利用できるかを検討する際に一助となることを期待している。

関敬吾（1977：4）によると、「昔話」という語は、爺婆が孫子に語るときの「昔々」という発語に由来する語であり、江戸時代の学者はこの「昔話」に「童話」という漢字をあて、「むかしばなし」とも読ませているという。氏は、さらに、「昔話」という語が固定し始めたのは昭和五年、柳田国男が編んだ童児用の『日本昔話集』、「旅と伝説」（昭和六年）の「昔話特集号」、『桃太郎の誕生』の

臺灣大學學術期刊資料庫

一連の論文などからであると指摘した[25]。柳田国男（1957：3）は、これまで自分等が「昔話」を「民間説話」と言い、またそれを略して「民譚」[26]と言ったと述べた。そして、その内容は実は時代と共に驚くばかりの新陳代謝をしており[27]、時と共にますます短くなってきたことも言及した[28]。前掲書（1957：251）は、「昭和のお婆様は明治の初年に聴いて置いた話をする。大正の少年は江戸期終りの頃の口碑を聴いて、それを更に未来の孫に引継がうとするのであろう」と述べ、昔話の時代性が示唆される。では、これまで浮き彫りにしてきた昔話語彙の特徴はどの時代の反映になるのか。また、それが児童のために新作童話との間には、どのような相違点があるのか。これらは日本昔話語彙の性格を考えるにあたって検討すべき課題ともなるが、検討は他日を期する。

形容詞141語の中に、34語（24.1%）が日本の古典文学作品を読むための基本的な語彙[29]にさかのぼることができる。これを日本古典を読むためのウオーミングアップとして活用することにつながると考えられるが、つながり方も課題として残される。

一方、これらの形容詞にどのうな人物像が伝えられているのか、日本昔話における登場人物がどのような形容詞に修飾されるのか、また、それが形容動詞とどのような相関関係にあるのか、もしくは、

---

25 詳しくは、『日本の昔話―比較研究序説』（1977：64）を参照されたい。

26 これについては、柳田氏が『昔話覺書』（1957年、修道社）に次のように述べている。

> これまで自分等が民間説話と謂ひ、又はそれを略して民譚と謂つて居たものと、こゝでいふ昔話とは全然同じものである。～（中略）～それならば何故に今頃「昔話」などといふ古臭い語を、持ち出して使ふかといふ疑問が起るかも知らぬが、それには堂々たる幾つかの根據がある。主たる理由はかう言はぬと採集が一層むつかしいから、私は是非ともこの語を將來の精確なる日本の用語とし、他の一方ものを必要な場合の代用語にして置きたいと願つて居る。～（略）～
>
> 昔話は以前あるひは昔語り、もしくは昔物語と謂つた時代があつたかも知れぬが、それを昔話と謂ひ始めてからも、もう隨分久しいことである。

とあるように、「昔話」という用語は、新しく作られたものではなく、古くからあったとわかる。

27 詳しくは、『昔話覺書』（1957：21）を参照されたい。

28 詳しくは、『昔話覺書』（1957：25）を参照されたい。

29 注18、19を参照されたい。

臺灣大學學術機構資料庫

集めてきたデータをいかに昔話を中心とするコーパスの構築につなげていくのかなどについては、紙幅の関係で、今後の課題とする。

【付記】本稿は、「2021 年度　台湾大学日本語イノベーション国際学術シンポジウム」（2021 年 10 月 16 日）で発表したものに修正・加筆を行ったものである。大会での発表の際、貴重なご指摘・ご教示を賜ったコメントの先生、フロアの皆さまに厚く御礼を申し上げると同時に、本稿は、台湾の科技部専題研究計画（研究計画番号：MOST 110-2410-H-002-105 -）による研究成果の一部としてまとめたものでもある。ここに記して感謝申し上げます。

【参考文献】

庵 功雄（2012）「日本語教育文法の現状と課題」『一橋日本語教育研究』1 号

大野晋（1956）「基本語彙に関する二三の研究―日本の古典文学作品に於ける」『国語学』24

樺島忠夫（1954）「現代文における品詞の比率とその増減の要因について」『国語学』18

樺島忠夫（1955）「類別した品詞の比率に見られる規則性」『国語国文』24（6）

樺島忠夫・寿岳章子（1965）『文体の科学』綜芸舎

金田一春彦（1988）『日本語　新版（上）』岩波新書

佐藤武義（2007）「形容詞」『日本語学研究事典』明治書院

関敬吾（1977）『日本の昔話―比較研究序説』日本放送出版協会

田貝和子（2011）「日本語の計量的分析 ―教養ゼミナールでの試みから」『秋田高専研究紀要』第 47 号

冨士池優美（2020）「第 2 章　語彙の量的構造」『日本語の語彙・表記』朝倉書店

野田尚史編（2004）『新しい日本語教育文法』くろしお出版

臺灣大學學術期刊資料庫

水谷静夫（1963）「語の基本度の決定法試案」『国語学』第 53 集国語学会
——（1983）「基本度 f 上位七百語」『朝倉日本語新講座 2』朝倉書店
村木新次郎（2014）「形容詞」『日本語文法事典』大修館書店
柳田国男（1957）『昔話覺書』修道社
山崎誠（2014）「言語単位と文の長さが品詞比率に与える影響」『第 5 回コーパス日本語学ワークショップ』
賴錦雀（2007）「女性描写における日本語形容詞－「－い女」を中心に」『東吳外語學報』25 期，東吳大學（台北）
——（2009）「男性描写における日本語形容詞「～い（男）」をめぐって-「～い（女）」 との比較も兼ねて」『台灣日本語文學報』25 号，台灣日本語文學會
筆者（2014）『日本昔話語彙の研究』台大出版中心
——（2015）「日本昔話方面語の登場人物から窺われる庶民の生活文化」『日本語語彙へのアプローチ—形態・統語・計量・歴史・対照—』（斎藤倫明・石井正彦編）おうふう
——（2017）「登場人物から見た日本昔話語彙の特徴—『赤い鳥』の童話を手掛かりに—」『台大日本語文研究』34号

臺灣大學學術期刊資料庫